

日本バルブ工業会

バルブの森 実現へ

モリコロパーク内に

日本バルブ工業会（西岡利明会長）は7月25日、長久手市の愛・地球博記念公園（モリコロパーク）で植樹イベント（セレモニー）を開催した。同工業会は3年をかけて同公園内に「バルブの森」を作っていく計画を立てており、その第一歩となる植樹。

同工業会の若手・次期経営者の会として5年前に発足した「清流会」では、今年が同工業会設立70周年の節目に当たることを契機とし、社会貢献事業として寄付事業を実施することを決定。同事業では、毎年計画的に寄付を行うとともに、激甚災害に指定され日本赤十字社が寄付を募っている災害に対する緊急的な寄付も行う。

うち、計画的な寄付における寄付先を検討する中で、同工業会が新たに

西岡会長（右）と植樹



取り組んでいるカーボンニュートラルに着目し、緑化・植樹への寄付について検討。同工業会の認

知向上も兼ね、毎年植樹を行う「バルブの森」を作っていくこととし、寄付先を検討する中で、愛知県から愛・地球博記念公園（モリコロパーク）の情報提供があり、県と協議を進めた結果、同公園の中心にある「ジブリの大倉庫」の隣接地で植樹と記念碑の設置を行うこととなった。植樹する樹種は、名前に「水」がつくハナミズキ（花水木）に。1年間に5本程度植樹し、3年かけてバルブの森を作っていく計画。